

第3回ものづくり日本大賞

ものづくり日本大賞とは、我が国の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、更に発展させていくため、製造・生産現場の中核を担っている中堅人材や、伝統的・文化的な「技」を支えてきた熟練人材、今後を担う若年人材など、「ものづくり」に携わっている各世代の人材のうち、特に優秀と認められる人材に対して内閣総理大臣賞を授与するものとして、2005年に制度がス

タートした。2009年7月15日に第3回ものづくり日本大賞の表彰が行われ、20件50名1団体が内閣総理大臣表彰を受けた。また、第3回ものづくり日本大賞では、このほかに2009年9月にカナダ・カルガリーにて開催された第40回技能五輪国際大会における金メダリスト8名が同年12月15日に内閣総理大臣表彰を受けている。ここでは、これら内閣総理大臣表彰を受けた受賞者について紹介する。

石関 誠二氏 石関プレジジョン(株)

(卓越した技能者 成形プレス工)

緻密な金属特性の研究、革新的な金型設計、正確な金型製作技術による精密成形プレス部品の製造に関する技能に卓越しており、受賞者が開発した金属絞り部品の多列高速絞り加工技術により、金属部品の生産速度、メンテナンス頻度の大幅な改善を実現し、ニッケル水素蓄電池の安全弁ホルルの付いた絞り部品の量産化（毎分1,500個以上生産）に貢献している。



2010製造基盤白書（ものづくり白書）P229より

付論I

第3回ものづくり日本大賞